

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4672700095
法人名	医療法人 蒼風会
事業所名	高齢者グループホーム りんどう
訪問調査日	平成20年7月4日
評価確定日	平成20年8月2日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4672700095
法人名	医療法人 蒼風会
事業所名	高齢者グループホーム りんどう
所在地	南九州市川辺町平山6910番地 (電話) 0993-56-4976
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成20年7月4日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,500 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (174,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	76歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	児玉病院、かわなべ共立内科、宮園外科医院、川路歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

病院が母体であり、日常はもとより緊急時や入院の際には、かかりつけ医や訪問看護師と連携して適切な医療の提供が行われるため、入居者やご家族にとって大いに安心できるホームである。周辺には商店街があり、市の支所や消防署も近く、地域から孤立することなく過ごすことができる。広々とした食堂ホールでは、入居者が思い思いの場所で自宅のようにくつろがれ、居心地の良さが感じられる。職員は常に問題意識を持ち、人生の大先輩である入居者の皆さんが、地域の一員としてその人らしく暮らすことができるように熱心に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員を育てる取り組みについては外部の研修に積極的に参加し、段階に応じた研修への参加を促している。同業者との交流を通じた向上については、地域のグループホームとの交流会を開始し、相談や意見交換ができる機会がつけられている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、職員の意見を参考にしながら自己評価をまとめている。自己評価に対する職員の参画や、外部評価を含めた評価の意義についての理解は今後の課題である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は行政、地域住民等が参加して、2ヶ月に1回のペースで開催している。ホームの現状報告や意見交換、評価への取り組みや結果報告などが行われ、出された意見については継続的に検討し、サービスの質向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	訪問時にご家族に声をかけ、意見などが言いやすい雰囲気づくりに努めている。重要事項を記した利用案内では、相談の受付・対応についてわかりやすく説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	保育園の慰問や、民生委員の見学を受け入れている。買い物は近くの商店で購入し、地域住民との繋がりを大切にしている。地域住民を対象にした学習会の開催を検討している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から、地域住民の一員としてその人らしく生活が送れるようにとの思いを込め、理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の目に入りやすい場所に理念を掲示して、意識付けを図っている。ミーティングや日々の業務の中で、管理者および職員同士で指摘し合い、理念に基づいたケアが実践できるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園の慰問や、民生委員の見学を受け入れている。買い物は近くの商店で購入し、地域住民との繋がりを大切にしている。地域住民を対象にした学習会の開催を検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、職員の意見を参考にしながら自己評価をまとめている。自己評価に対する職員の参画や、外部評価を含めた評価の意義についての理解は十分とは言えない。	○	自己評価は管理者、職員がともに取り組むことでその効果が発揮される。評価について十分に話し合う機会を確保し、外部評価結果とあわせてサービスの質向上に活かせるように努めていただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行政、地域住民等が参加して、2ヶ月に1回のペースで開催している。ホームの現状報告や意見交換、評価への取り組みや結果報告などが行われ、出された意見については継続的に検討し、サービスの質向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の相談や手続きなどで行政担当者と接する機会を持ち、スムーズなホーム運営に心がけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回以上はご家族の訪問があり、その機会を利用して日々の暮らしぶりや健康状態の報告を行っている。金銭管理状況も同様にご家族に報告しているが、サインなどの確認記録は残されていない。	○	金銭の取り扱いは、ご家族との信頼関係に大きく関わるものであり、後日第三者が見ても報告・確認していることがわかるように、サインなどの方法を検討していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時にご家族に声をかけ、意見などが言いやすい雰囲気づくりに努めている。重要事項を記した利用案内では、相談の受付・対応についてわかりやすく説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職する場合は3ヶ月前までに申し出ることとしており、十分に時間をかけてスムーズに引継ぎが行われるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は研修情報を受けて、法人内外の研修に積極的に参加している。経験や立場に応じて研修を受講しており、段階に応じた育成も行われている。		年間計画を立てて、現状の研修体制をさらに効率的なものにしていただきたい。また、疾患や制度の基礎的なことを含めた研修企画があり、さらなる内容の充実にも期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県および地区のグループホーム連絡協議会や地域のホーム同士で集まり交流を図ることで、サービスの質向上に向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者には、馴染みの関係をつくってから入居していただけるように配慮している。入居後も、状況によりご家族の訪問を依頼して、本人が安心して新しい生活環境に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者が人生の大先輩であると理解しており、一緒に過ごしながら体験談などを聴き、様々な事を学んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者に問いかけ、思いが表現できる機会を持つように心がけている。生活記録や何気ない会話からも、思いを引き出すように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族に意向を確認し、主治医、職員で話し合い、その意見を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	更新時や区分変更時に介護計画の見直しを行っている。ケア内容が変化した場合、個人の記録に記入されているが、介護計画の見直しまでは至っていない。	○	更新時や区分変更時以外にも、入居者の状態変化やケア内容の変更があった場合は、個別記録を基に介護計画の見直しにつなげ、職員間で共有できるようにしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や墓参りなど、ご家族が対応できない場合は臨機応変に支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人およびご家族の希望を基本にしなが、母体病院や協力医療機関への定期受診や訪問診療、訪問看護の利用等について、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	身体状況の変化に応じて、本人およびご家族と今後の対応について話し合い、かかりつけ医とも連携して、職員を含めた関係者間で情報の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いには特に注意しており、職員同士でお互いを指摘しあって不適切な対応にならないようにしている。個人の記録は鍵付きの棚に保管し、適切に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望を聞き、入浴や食事、外出など、日課にとらわれず、できる範囲で本人のペースにそって柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌い調査を実施しており、献立については当日、入居者の希望を聞くようにして、食事が楽しいものとなるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる状況にあり、一人ひとりの希望に合わせて入浴の支援を行っている。入浴の有無を一人ひとり記録し、適切に入浴が行えているか確認できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カーテンの開け閉めや下膳など、入居者それぞれに日々の生活の中で役割を持ち、職員はそれが一人ひとりの生きがいになることを理解して支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの商店街への買い物や散歩により、日常的に外出できるように努めている。また、季節を感じられるように、ドライブや行事を企画している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開放しており、自由に出入りが可能な状態になっている。外出しそうな入居者に対しては無理に止めることはせずに見守り、状況に応じて付き添うようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの下で避難訓練を行い、災害時に備えている。ホームの2階は同法人専用のアパートで、母体病院の職員が入居している。避難訓練にはこれらの職員も参加し、緊急時の協力体制が整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士に食事の状況を確認してもらい、一人ひとりの状態に応じた栄養バランスが確保できるようにしている。食事量、水分量は個人別にチェックし、摂取状況を全職員が把握できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	幼稚にならないよう注意しながら、季節に応じた作品を入居者と職員がともに作成して食堂に飾っている。明るく居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしい生活が送れるように、本人やご家族と相談しながら持ち込む物を検討し、居心地の良い居室となるように配慮している。		